

スイートコーン調査方法

1 試験区ならびに調査対象株数及び面積

項 目		必要株数(最少株数)	必要面積(最小面積)*
試験区(1区当り)		4畝** × 14株 = 56株 (4畝 × 10株 = 40株)	16.8㎡ (12㎡)
調査対象*** (1区当り)	生育調査等	10株 (8株)	
	収量調査等	20株 (16株)	

*畝幅75cm × 株間40cm、a当り333株としたときの面積

**4畝とし、前後端1～2株を除いた中2畝を調査対象とすることが望ましい

***補植株は調査、収穫対象から除く

2 耕種概要

項 目	単 位	備 考	
畝幅	(cm)	ベット栽培の時は、ベット幅、通路幅、条間も記載	
株間	(cm)		
栽植密度	株数		(株/a)
1区面積			(㎡)
反復数			(反復)
播種期			(月 日)
播種粒数			(粒/穴)
中耕培土等			(月 日、月 日)
前作物			()
堆肥施用			(kg/a、月 日)
基肥量	N		(kg/a)
	P ₂ O ₅		(kg/a)
	K ₂ O		(kg/a)
追肥量	N		(kg/a)
	P ₂ O ₅		(kg/a)
	K ₂ O		(kg/a)
追肥期			(月 日、月 日)
マルチの有無・被覆期間など		(有無、種類、被覆期間:月日～月日)	
土壌区分			
土性			
腐植			
除草剤・病虫害防除		(薬剤名、月 日)	

3 生育調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁調査
出芽	期	播種粒数の40～50%が出芽した日	A	観察	月日	1
	率*	出芽揃い時の播種粒数に対する出芽数	B	測定	%	1
初期生育* (播種後45日 程度)	草丈	地際より伸ばした最高葉の先端まで	A	測定	cm	1
	葉数	最上位葉数(0.1単位)は次位葉長を1とする比率で示す	B	測定	枚	0.1
雄穂抽出(抽雄)期		40～50%の株の雄穂が抽出した日	B	観察	月日	1
開花期		50%の株の花粉が飛散し始めた日	A	観察	月日	1
絹糸抽出(抽糸)期		40～50%の株の絹糸が抽出した日	A	観察	月日	1
収穫期		収穫を行った日(一番穂のみを対象とする試験区毎の一斉収穫を原則とする。可能な限り適期収穫に努める)	A	観察	月日	1
生育日数		播種期から収穫期までの日数	A	算出	日	1
収穫期の生育量	稈長	地際から雄穂穂首までの長さ	A	測定	cm	1
	着雌穂高	地際から最上位雌穂着生節位までの長さ	B	測定	cm	1
障害程度	倒伏株率*	30度以上傾斜した株数の収穫対象株数に対する比率。必要に応じ発生(調査)時期及び程度を付記	A	測定	%	1
	その他	すす紋病、アブラムシ等必要に応じ調査(障害の種類を付記)、[無]5～[甚]1	B	観察	指数	1

*指数評価も可、出芽・初期生育[良]5～[否]1、倒伏[無]5～[甚]1

4 収量調査

項目		調査基準	ランク	調査	単位	最小桁調査
雌穂数(㍻当り)□	規格別内訳*	適切な雌穂の調整を行い、重量による規格分けを原則とする。形状、粒列等に著しい乱れの無い雌穂の数	A	測定	本	1
	2L	包葉付雌穂重450g以上(または雌穂長20cm以上)				
	L	// 400～450g未満(または // 18～20cm未満)				
	M	// 300～400g未満(または // 15～18cm未満)				
	規格内雌穂数	上記 2L～Mの合計本数	A	算出	本	—
	規格外雌穂数	上記規格に合致しない雌穂の数**	A	測定	本	1
雌穂重(㍻当り)	規格別内訳	上記規格 2L～Mにより分類した雌穂の重量	A	測定	kg	1g
	規格内雌穂重	上記規格 2L～Mの合計重量	A	測定	kg	1g
	規格内剥包葉雌穂重	規格内雌穂の穂柄、包葉を除いた雌穂の重量	A	測定	kg	1g
	規格外雌穂重	規格外雌穂の包葉を含む重さ	A	測定	kg	1g
一穂重(㍻当り)*	規格内一穂重	(規格内雌穂重 × 1000)/規格内雌穂数	A	算出	g	1
	規格内剥包葉一穂重	(規格内剥包葉雌穂重 × 1000)/規格内雌穂数	A	算出	g	1

* 野菜標準全道統一規格としたが地域の独自規格によることも可(規格を付記する)

** これらの発生が特異的に多かった場合にはその種類を付記する

***一穂毎に穂重を測定し、その平均値から得るほうが望ましい(調査・表示最小桁1g)

5 特性調査

項目	調査基準	ランク	調査	単位	最小桁
					調査
包葉被覆程度	雌穂先端部の包葉被覆程度 [良]5～[否]1	B	観察	指数	1
雌穂径	剥包葉後の雌穂中央部最大径	A	測定	cm	0.1
穂心長	穂心の基部から先端までの長さ	A	測定	cm	0.1
雌穂長	可食粒部分の長さ(穂周上の位置で一定でない場合は平均的な位置で測定)	A	測定	cm	0.1
先端不稔長	先端不稔の長さ(または観察により[無]5～[甚]1)	A	測定 (観察)	cm (指数)	0.1 (1)
先端不稔率	先端不稔雌穂数/調査雌穂数×100	A	測定	%	1
粒列数	雌穂中央部の列数	A	測定	列	1
粒列数範囲	粒列数の最小値及び最大値	B	測定	列	1
一列粒数	雌穂の同一列上の粒数(雌穂長測定部位で測定)	B	測定	粒	1
穂のそろい	雌穂の大きさ・形状等のそろい [良]5～[否]1	B	観察	指数	1
粒列のそろい	粒列の斉一さ [良]5～[否]1	B	観察	指数	1
食味	甘さ	A	官能	指数	1
	軟らかさ	A	官能	指数	1
	総合	A	官能	指数	1

*特性調査に使用する試料は、収量調査に用いた規格内雌穂から平均的な8～10穂(食味は2～3穂)を抽出し調査する

**各指数評価は標準品種を3とする相対評価を原則とする

6 調査栽培上の留意点

- (1) 試験圃場の近くに飼料用とうもろこしや、異なった種類のスイートコーンなどがあるとキセニアが生じることがあるので、圃場の選定には注意する。